

新潟日報(夕刊)

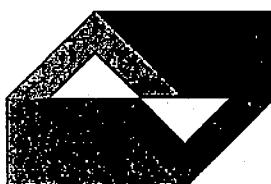
2007年(平成19年)10月17日(水曜日)

私の父は一言で表現するならば「猪突猛進」なんとも賑やかで騒がしい人です。趣味にはとことん没頭するタイプで、釣り、盆栽、キノコ狩りなど、普段負けの腕前になるほどのめぬ込みます。今でも昼間は毎日ヨリに出て掛けていいで、お爺さんの「お父さん、元気かい?」の問いかけに、「はい」とばかりいい。海に山に畑に山に駆け回つて、お爺さんは誠にありがとうございます」と答えることができるのです。

思ひ立つたら即、行動で、私が東京で大学に通つている間、父は町興しの活動で随分と奔走した時期がありました。当時は、無謀としか思われ

晴|雨|計

父のこと



なかつた「プロジェクト」没頭したながら、千葉のJNから父はどんなエネルギーは計り知れず、果てはバチカンに向いてとうとうローマ法王との謁見まで実現してしまいました。かばれあで、「おひとやか」には縁遠いこの奇跡的な顛末は、私も何十回と聞かされて頭にシーンが浮かぶほどです。一方、そんな気性の半面もあります。私が東京で就職して感の跡取りが空白になった数年間、父はしばらく気病んでいた様子でしたが、結局「戻つて」とは口にしませんでした。家族には言いたい放題だった父の数少ない沈黙。私が「戻る」と告げた時も、一言「そうか」と返しただけでした。『猪突猛進』の中に見た親心。子供の心には「なかなか」と映つたものです。

普段はそんな元気な様子しか浮かびませんが、重い病氣で入院した時期もありました。大げんかした」ともじょつあやうで「これは今でもありますのが、困ったものだと思います。しか

尾畠 留美子(尾畠酒造常務取締役・佐渡市)